

## 市議会6月議会 定例会 行政報告

市議会6月定例会が6月3日に招集され、小畑市長が行政報告を行いました。その中から、主なものの要旨をお伝えします。

# 地域経済活性化に一役

## 地域振興券交付・使用状況

三月十六日から五月三十一日までの地域振興券の交付件数は一万七千九百八十八件、交付額は三億五千九百七十六万円でした。この交付状況は、予定総数の九八・八パーセントに当たります。その内訳は、十五歳以下が一万三百九件で予定の九十九・九パーセント、そのほかが七千六百七十九件で、九七・五パーセントとなつています。

一方、地域振興券を使用できる事業者数は一千百五十三社で、そのうち四百九十九社において使用

されています。五月三十一日分までの換金請求額は二億八千七百六十七万四千円となっており、交付済みの八〇パーセントがこの二か月半のうちに使用されています。使用の状況を店舗の種類別に見ると、大型店が四四・八パーセント、大型店以外の運動具店、食料品店、衣料品店などが五五・二パーセントと半数を超えており、大型店を上回っています。また、地区別に見ると、九二・一パーセントが旧市内で使用され、そのほかでは釈迦内、上川沿及び花矢地



区で主に使用されています。このように地域振興券は、比較的短期間にさまざまな範囲で使用されており、地域経済の活性化に一定の役割を果たしているものと考えています。

## 火災多発 第二次特別警戒本部を設置

市では、本年の火災発生件数が例年に比べて非常に多いことから、広域消防本部とともに火災多発特別警戒本部を設置し、火災予防に努めています。

今年の一月から五月末までの火災発生件数は二十五件で、昨年同期と比較すると十四件も増えています。また、これらの火災が原因で三人が死亡し、七人が負傷しています。

四月十八日に常盤木町で最初の犠牲者が出た翌日から五月九日までの三週間、市では広域消防本部とともに火災多発特別警戒本部を設置し、消防団や火災予防組合の協力を得ながら火災予防に全力を注いできました。しかし、五月二十三日に再び犠牲者が出るなど、いまだ沈静にいたらない状況です。

このような事態を重大に受けとめ、五月二十五日に第二次火災多発特別警戒本部を設置して、警戒広報を一層強化するとともに、五月二十八日には市民の防火防災意識の啓発のため、消防機関と合同で防火パレードを実施しました。

また、教育委員会においても、幼稚園や小・中学校の教職員を通じて、子どもたちに火遊びの禁止など注意を促したところです。

市民の安全を確保するために、今後とも努力を重ねてまいります。

## 急患センター 予想を上回る利用状況

昨年四月一日に開設した大館市休日夜間急患センターは、大館市北秋田郡医師会、秋田労災病院、比内町立扇田病院、大館市立総合病院の医療スタッフや大館北秋葉剤師会など関係各位の多大なご協力をいただきながら、昼夜の診療